

企業名： アウトソーシング

レポート名： 「統合報告書 2022」

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

私は十分に理解できると考える。アウトソーシング社の目指す将来の姿を端的に表すと、世界中の労働格差を無くし、全ての人の生活が豊かになることを手助けするような会社になることだと思う。これは2020年に一新された企業の経営理念でもあり、この達成こそが自社の存在意義及び社会的な責任であると考えている。このような経営理念のもとでサステナビリティの推進、世界各地での教育や終業機械の想像を行い、貢献しているSDGsの数は14個にも及んでいる。グローバルな視点で授業を進めることで過去10年におよぶ成長率は10倍以上に及んでいる。過去の成長率から現在の事業を継続することで、今後はさらなる飛躍が見込めると考えられる。

## 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

問題なく理解することができた。売り上げ収益構成比が一番高い海外製造系及びサービス系事業では外勤社員数が51229人、グループ会社が140社にも及んでいる。この数字は規模の近い同業他社と比べてかなり多く、アウトソーシング社がいかに海外に目を向けているかが分かる。また、事業内容に欧州とオセアニアでは公共機関向けのBPOサービスや人材派遣を提供し、欧州及びアジアでは国境を越えた雇用サービスの展開を進めていると書かれている。具体的には自社の人材派遣の強みとして、オランダやドイツをはじめとした西欧諸国の慢性的な労働力不足に中東欧諸国のグループ会社から人材を供給している。他にも海外技術系事業において、特にオセアニアではコロナの影響を受けたもののIT関連の事業やエッセンシャルワーカーなどに対する注力で力強い回復に成功している。技術系事業における強みとしては、M&A戦略によって事業領域の拡大を図ることで様々な公共系事業を受託できるような体制を構築している。海外への投資以外には、人材育成の点で他の企業との差が見られる。RESPECTの頭文字で始まるRESULT（結果）、EUROPEAN（欧州）、SOCIALY INVOLVED（社会活動）、PERFORMANCE（パフォーマンス）、EMPOWERMENT（自ら行動する力）、CUSTOMER EXCELLENCE（カスタマーエクセレンス）、TRANSPARENT（透明性）を大事にしているため働く場所に関わらず社員に対し同待遇をすることを大切にしている。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解することができた。アウトソーシング社ではコロナ禍 2 年間様々なダメージを受けたが、事業戦略として推進していた事業領域の拡大が奏功したため結果として企業の伸長に繋がった。このことから、いかなる危機に陥っても逆境に乗り越える力があると考えることができる。次に、持続性の面で一番大事である人材育成について考える。2 番でも触れたように RESPECT の頭文字に始まる要素を大事にし、独自のシステムで人材の育成を行っている。これは、新入社員が入社後に受ける研修制度のことであり、IT、研究、開発、事務など多くの種類の職種に就業し経験を積むのである。海外でも展開していて、この事業を通し様々なことを学んだ多くの社員が企業に貢献をしている。最後に、本企業では就業機会と教育機会の想像を事業を通しながら行っている。これは、サステナビリティ経営とも呼ばれかなり持続性があると考えることができる。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うことができる。それは、アウトソーシング社の人材育成に対する取り組み、海外に目を向けていること、持続性にかなり力を入れていることの 3 点からである。人材育成に関しては、独自の人材育成により多方面の職種について学べるため幅広い視野で物事を考えることができる。次に、グローバル化の取り組みで世界各国に事業を転嫁しているため自分自身の国際力も上がると考えることができる。最後に、持続性に関してだが 14 個もの SSDGs に貢献しているため自身も社会問題に対して、貢献できる人間になれると考えられるからである。

### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

アウトソーシング社の統合報告書はかなり読みやすく、企業の目指している方向性が明確に理解できるものであったと考えられる。世界をイメージした青を基調に報告書が作られていて、視界に入りやすかった。さらに、各代表の意見をまとめたページがあったため内部の人の考えも理解することができた。改善の余地があるとするのであれば、もう少し具体的な数値や写真があった方が理解しやすいと思う。